

清水建設本社における持続可能な社会に応える建物運用

[推薦文]

本業績は、持続可能な社会が求める建物運用を推進するために、ZEB・脱炭素・サステナブル・働き方の4つのキーワードで従来の建物管理に加え、社会や環境の変化に迅速かつ柔軟な対応を行っている。本建物に導入した環境技術の最適化やエネルギー使用量の削減だけではなく、全ての働く人達に安全・安心で快適な環境を提供できるよう、社会ニーズや利用者ニーズに応えながら、人中心の施設としてより良くすることを目指して運用している。

本業績の主たる評価点は、以下のとおりである。

- 1) 都市型超高層ZEBにおける10年間の検証と運用改善が行なえている。そのために、定期的な会議により改良点を見つけ出し、適切に改修しその効果を検証している。2013年度から冬期のインテリア放射空調の運転を中止し、快適性を損なうことなく、省エネルギーを図っている。また、ポンプの運転改善・外気処理及び電気室空調機のパラメータ変更を実施し、省エネルギーを図っている。これらの結果、事務所エリア一次エネルギー消費量(厨房・店舗・特殊機器を除く・コンセント無)は10年間に渡り約600MJ/(m²・年)となりZEB Ready相当を達成している。
- 2) 脱炭素社会実現に貢献する技術の普及と環境活動により、脱炭素に関連する認証や認定を受けている。具体的には、Jクレジットを活用しゼロカーボンを達成、また東京都のトップレベル事業所の認定を受けている。普及活動としては、放射空調普及のために、当該建物で採用したシステムに改良を加え、10件以上の導入実績がある。環境活動として、本建物周辺の15施設で構成された「京橋スマートコミュニティ協議会」を設立し、地域全体でのエネルギーマネジメントシステムを構築し、地域での節電にも取り組んでいる。
- 3) サステナビリティを推進する社会と環境の変化への対応が行なえている。冬期の電力需給逼迫時として、節電メニューを事前に用意し、電力会社より20%程度の節電要請が発令され、最大21.4%の削減を実現している。また、ハザードマップの変更に伴い水囊型簡易膨張ダムシステムの採用や、オールジェンダートイレ、感染症対策等の対応を行っている。
- 4) 多様な働き方を支え新たな価値を創造するフィールドづくりが行なえている。一部のフロアを全面改修し社内外とのコミュニケーションに対応出来る場を作っている。そのために常に位置情報が分かるシステムを導入し、空調の連動制御も実現している。これらのワークプレイス改修に伴う満足度調査を実施し、高い満足度を確認している。

総合建設業の本社ビルとして、グループ全体の企業ビジョンに連動した高い目標設定を立て、1つ1つ実践している。特に2050年100%削減のカーボンニュートラル達成を目標に、自社オフィスの中でのトップランナーとして、10年以上にわたり運用改善を進めている。また、本建物の脱炭素に関する取り組みに加え、地域のスマートコミュニティ協議会の立上げ、サステナビリティ性能の強化や多様な働き方を支える新技術の実践にも積極的に取り組んでいる。

よって、本業績は空気調和・衛生工学会特別賞十年賞に値するものと認められる。